

《実績》

2016 年度、我々が手術室で根治切除を行った主な疾患は大腸癌 50 例（うち腹腔鏡手術 21 例）、肝胆膵腫瘍 24 例、胆嚢摘出 62 例（うち腹腔鏡 53 例）である。その他の詳細は表 1 に記載したとおりである。

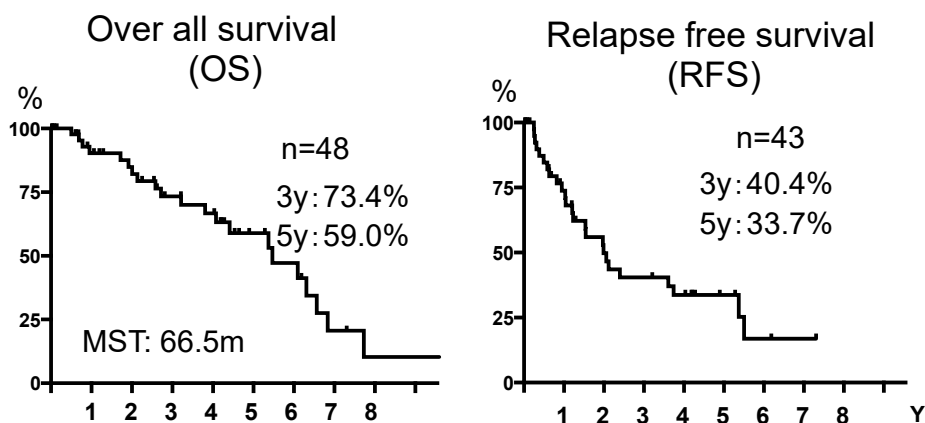
ところで、当院では倫理委員会での承認のもと、肝胆膵の難治性腫瘍において、近年注目されている免疫チェックポイント阻害剤の標的の一つである PD-L1 の発現や、腫瘍に浸潤する細胞障害性 T 細胞（CTL）の程度等を免疫組織学的手法により評価している。当院開設 2004 年 3 月から 2016 年 9 月までの 12 年 6 ヶ月間に我々が経験した肝細胞癌切除 48 例の 5 生率は 59.2%、生存期間中央値は 66.5 ヶ月で、基幹病院と遜色のない成績であった（図 1）。PDL-1 の発現と CTL の浸潤には統計学的関連が見られ、PDL-1 高発現例の 81.8%で CTL の高浸潤が認められた。まだ、保険適応になってはいないが、肝細胞癌でも免疫チェックポイント阻害剤の効果が期待できる可能性が示唆された。

表1

食道	胸部食道切除	1	
	幽門側胃切除(悪性)	14	
胃十二指腸	胃全摘(悪性)	10	
	腹腔鏡下胃全摘(悪性)	1	
	胃切除(良性)	1	
	胃切除(腹腔鏡下)	1	
	胃その他	4	
小腸・大腸	イレウス解除(開腹)	9	
	小腸切除(開腹)	3	
	虫垂切除(開腹)	13	
	虫垂切除(腹腔鏡)	2	
	結腸切除(開腹)	24	
	結腸切除(腹腔鏡)	14	
	人工肛門造設術	9	
	人工肛門閉鎖術	4	
	低位、超低位前方切除	7	
	腹会陰式直腸切断	2	
	直腸手術(腹腔鏡)	5	
	痔核、裂肛、痔瘻、直腸脱	12	
	肝胆膵	膵頭十二指腸切除	7
		膵体尾部切除	2
肝切除(部分切除)		9	
肝切除(亜区域以上)		8	
胆摘(開腹)		9	
胆摘(腹腔鏡)		53	
ヘルニア・その他	脾摘	1	
	兪径大腿ヘルニア	80	
	腹壁ヘルニア	6	
	腹壁ヘルニア(腹腔鏡)	1	
	汎発性腹膜炎手術	2	
その他	11		
計		325	

図1

Survival



MST: median survival time